第１学年　社会科（歴史的分野）学習指導案

日　時：平成２８年〇月〇日（〇）第〇校時
対　象：第１学年〇組〇名
学校名：〇〇立〇〇中学校
会　場：教室

１　単元名：中世の日本と世界
中学社会　歴史～未来をひらく～（教育出版）、学び考える歴史（浜島書店）

２　単元の目標

（１）幕府と朝廷の視点を取り入れた学習や古代との比較する学習を通して、中世の特色や時代の大きな流れに対する関心を高め、主体的に学ぶ態度を養う。
（２）幕府と朝廷の視点を取り入れた学習や古代との違いを追究することで、中世の特色を多面的・多角的に考察・判断し、それらを自分の言葉で適切に表現する。
（３）幕府のしくみを示す資料や法、碑文などの歴史的資料を読み取ったり、適切に選択し活用したりする。
（４）幕府と朝廷の視点を取り入れた学習や古代との比較する学習を通して、中世の特色について理解を深め、それらに関連する知識を身に付ける。

３　単元の評価規準

視点	ア：社会的事象への関心・意欲・態度	イ：社会的な思考・判断・表現	ウ：資料活用の技能	エ：社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	・武家政権のおこりや変化、東アジアを含む周辺諸国との関わりや民衆の成長といった中世の特色に対する関心を高め、それを追究し、捉えようとしている。	①武士と朝廷のつながりや武家政治の変化、周辺諸国との関わりといった中世の特色を教科書の記述を参考にして、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で適切に表現している。 ②諸資料を適切に活用し、どうすればよりよいものになったかという持続可能な社会づくりのための視点を取り入れて考察している。	・中世の特色に関する様々な資料を収集し、適切な情報を読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・朝廷や民衆の視点を踏まえながらどのように武家政権が広がり、変化していったかという中世の特色を理解し、その知識を身に付けている。

4　指導観

（１）単元観

本単元は、中学校学習指導要領第２章第２節社会第２「歴史的分野」の内容（３）ア・イ及び内容の取扱い（４）ア・イに沿って設定したものである。

ア　鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。 （内容の取扱い）アの「東アジアの国際関係」については、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割などを取り扱うようにすること。「武家政治の特色」については、主従の結び付きや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。 イ　農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。 （内容の取扱い）イの「武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化」については、この時代の文化の中に現在に結び付くものがみられることに気付かせるようにすること。

この中項目では、12 世紀ごろから 16 世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連に着目して学習させる。中世では、武士の支配が次第に広まるとともに、東アジアの世界との密接な関わりがみられ、諸産業の発達と都市や農村の変化、武家政治の展開や民衆の活力を背景とした新たな文化の展開などの動きがみられた。歴史的分野の大きなねらいは、中学校学習指導要領にもある通り、「我が国の歴史の大きな流れ」を「各時代の特色を踏まえて理解させる」ことであるが、その際以下の点に注力して学習計画を立てた。

これから学習する中世という時代は、武士が登場し、鎌倉幕府・室町幕府といった政権が続いていくが、近代国家のような“国”としての統一機構ができているわけではない。自身の経験や生徒への聞き取りを総合すると、この時代は特に、教科書上では為政者にスポットが当たり、朝廷という存在が分かりにくく、それによってその時代の正しい特色を捉えることが難しいと考えられる。この単元は、幕府と相対的に学習することで、朝廷のもつ権威と権力を学ぶよい単元である。朝廷と幕府の政権の移り変わりが激しい時代であることと、武家政治の展開の中における朝廷の権威と権力について生徒につかませ、近世以降の歴史学習につなげていきたい。中世における朝廷の権威と権力を押さえることで、織田信長をはじめとする戦国大名の在り方や江戸時代、そして明治以降の時代の特色が捉えやすくなると考えたからである。例えば、「信長はなぜ朝廷を滅ぼさなかったのか」や「幕末に朝廷の権威が高まったのはなぜか」などの問いを解決していくことができ、今後の歴史学習を進めていく上で重要な視点であると考えている。

さらに、本単元におけるまとめの際は、「武家政治の形成において、もっとも影響のあった歴史的事象を選び、かつそれがどうなればその後に存続しえたのか」という持続可能な視点を取り入れた。地理的分野における持続可能な社会づくりのための学習だけに捉われず、歴史的分野においても歴史を通して学ぶ物事の持続性や価値観は、今後のあらゆる諸

問題を解決する力を養うことにつながると考えている。これからを生きる生徒は、これまで人類が経験をしたことのない時代へと突入する。地球規模での人口増、先進国における少子高齢、突発的に起こる天変地異などがそれに当たるが、“どうしてだろう”“なぜだろう”といった持続可能性の高さついて気付く感性が必要になる。これには「なぜこの政権は・政治は続かなかったのだろうか」という問いを立て、学習することが有効であろう。地理的分野はそれぞれの地域や国家において、歴史的分野はそれぞれの時代において、公民的分野は現代の社会のしくみや制度について、どのように捉え、行動したら、よりよいものになるのかを常に考え、問題解決型の能力を備えた公民的資質の基礎を育成する指導を行っていきたい。

（２）教材観

中世の時代において､朝廷の権威と権力が明確に読み取れる資料が見当たらなかったが、歴史学習を進める上で重要になる資料に代わるものとして、教科書の記述に着目して学習を進めることにした。例えば、鎌倉幕府の成立では教科書 P54「東日本の荘園や公領の支配権を朝廷から認められ」や承久の乱では教科書 P56「幕府を倒して朝廷の力を回復させようと考え」、さらには室町幕府の成立では教科書 P67「朝廷がもっていたさまざまな権限を吸収し」や「義満は天皇と将軍の上に君臨する最高支配者」など、朝廷と幕府の力関係が分かるような記述を毎時間さがし、常に朝廷と幕府を意識した授業展開を行うことで、本時の学習につながるように設定した。

５　年間指導計画における位置付け

第１学年は地理的分野を６０時間、歴史的分野に４５時間を当てており、歴史の時間は以下の通りである。

（１）歴史のとらえ方（５時間）
（２）古代までの日本（１９時間）
（３）中世の日本と世界（１３時間）－本時を含む本単元－
（４）近世の日本（８時間）　中世ヨーロッパ～織豊政権まで～

６　単元指導計画（全１３時間）

時限	学習目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第1時	土地の経済的側面から、武士の成長を理解する。	土地（＝財産）を守るために武装化していった武士の成長過程と血縁的結合の繋がりを理解する。	エー全国には荘園と公領があり、それを守るために武装化していった武士の登場背景や武士団としてのまとまりを理解している。（ワークシート） アー古代まで大きな違いである武士の様子を追究しようとしている。（ワークシート・発言）

第2時	武士がどのように政権を握っていったのか、朝廷（権力・権威）とのつながりを意識しながら理解する。	摂関政治から院政、そして平氏への政権の流れを、朝廷の権威と権力を押さえながら教科書の記述を参考にして理解する。	エー平氏が政権をにぎることになった過程やその政治の内容を、朝廷の権威と権力を抑えながら理解している。（ワークシート）
第3時	鎌倉を中心とした武家政権はどのような特色をもっているのかを理解する。	鎌倉幕府が置かれた場所や幕府のしくみなどの資料を読みとって、その特色を理解する。	ウー武士や鎌倉幕府に関する諸資料から、それらの特色を適切に読み取っている。（ワークシート）
第4時	武家政治はどのように広まっていったのか、朝廷の視点を踏まえて考察する。	承久の乱によって幕府の支配体制にどのような影響があったのか、教科書の記述を参考にして幕府と朝廷の視点を踏まえながら多面的・多角的に考察する。	イー①六波羅探題の設置など西国に幕府の支配権が広がったことを、幕府と朝廷の視点で考察し、表現している。（ワークシート）
第5時	幕府に対する蒙古襲来の影響を、諸資料を基に考察する。	蒙古襲来が及ぼした影響を諸資料から読み取り、考察する。	ウー蒙古襲来絵詞などの諸資料から、元軍と幕府軍の違いを適切に読み取っている。（ワークシート）
第6時	鎌倉幕府がほろんだ後、政治にどのような変化があったのか、理解する。	朝廷と幕府の関係や幕府のしくみを比較するなどして、政治の変化を理解する。 建武の新政がなぜ続かなかったのか、どうすればよかったのかを多面的・多角的に考察する。	エー室町幕府のしくみや鎌倉幕府との違いを理解している。（ワークシート） イー②建武の新政はどのようにすればその後も継続しえたのかという視点で、自分の考えを説明している。（ワークシート）
第7時	室町幕府が東アジアなどの周辺諸国とどのような交流があったのかを、諸資料を基に考察する。	室町幕府が周辺諸国とどのような交流をもっていたのか、諸資料から読み取る。	アー室町幕府と周辺諸国の関わりについて諸資料を使って意欲的に追究しようとしている。（ワークシート・発言） ウー日本と周辺諸国の交易品やルート、範囲などその特色を諸資料から読み取っている。（ワークシート）
第8時	鎌倉・室町時代における、産業の発達を理解する。	生活などが描かれた諸資料を読み取り、民衆の成長による一揆などの土壌を理解する。	エー鎌倉・室町時代における産業の特色を理解している。（ワークシート）
第9時	室町時代における民衆の成長を、諸資料から読み取って理解する。	正長の土一揆の碑文を基に民衆の成長を考察し、諸資料から当時の人々の暮らしを理解する。	ウー室町時代の民衆に関する諸資料から、自力救済の思いを読み取っている。（ワークシート）

第１０時	応仁の乱による社会の変化を考察する。	応仁の乱によって社会がどのように変化したのか、教科書の記述から朝廷の権威と権力も踏まえて考察する。	イ－①朝廷の権威と権力を踏まえ、戦国大名の登場など応仁の乱による社会への影響を多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート）
第１１時（本時）	武家政治が広がっていくポイントとなる出来事を選び、その理由を朝廷の視点を踏まえて説明する。	中世の特色である武家政治の展開を考察する際、その広がりに一番大きな影響を与えたポイントとなる歴史的事象を選び、それを多面的・多角的に考察する。	イ－①ポイントとなる歴史的事象を選んだ理由を、教科書の記述（既習事項）を基に幕府と朝廷の視点を入れ、多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート）
第１２時	鎌倉・室町時代の文化を比較し、その特色を理解する。	諸資料を読み取って、鎌倉・室町時代の文化を比較し、その特色を理解する。	エ－鎌倉文化と室町文化の違いを押さえ、それらの特色を理解している。(ワークシート)
第１３時	古代と中世を様々な面から比較し、その特色をまとめる。	古代と中世を比較し、中世の特色をまとめる。 政治・外交・社会・文化史の観点から、総合的に古代と中世を比較する。	ア－まとめ学習において、見る人を意識して丁寧に作業しようとしている。(ワークシート) ウ－古代と中世を比較し、その類似性や相違性を、諸資料を適切に選択して図や文章としてまとめている。(ワークシート)

7　指導に当たって

（１）単元を通しての取組

ア　１時間１枚を基本とするワークシートを配布し、ICT 機器を活用しながら諸資料を生徒にとって読み取りやすいように工夫している。さらに、情報の共有を図りつつ、資料の活用を進めている。

イ　ESD(持続可能な開発のための教育)という考え方を使って様々な歴史的事象を考察する。

（２）本時における取組

ア　現実に即したパフォーマンス課題を生徒に提示することで、課題解決型の学習に対する関心を高め、意欲的に取り組めるようにする。

イ　班の人数を最大４人とし、アクティブ・ラーニングの手法を（主体的・対話的で深い学び）を取り入れることで、多様な意見や価値観に触れる場面を設定し、批判的思考を行うことで思考力の向上を図る。

ウ　課題解決型の学習を班（集団）で学び合った後、さらに個人で取り組む課題解決型の学習の場を設定することで知識を深化させる。

エ　パフォーマンス課題に対するルーブリックを提示することで、学習課題に対する生徒の意欲を高め、かつ根拠をもった適切な意見構築をしやすくする。

８　本時（全１３時間中の第１１時間目）

（１）本時の目標

・武家政治が広がっていくポイントとなる出来事を選び、その理由を朝廷の視点を踏まえて説明する。

（２）本時の展開

<table>
<tr><th></th><th>学習内容・学習活動</th><th>指導上の留意点</th><th>評価規準・評価方法</th></tr>
<tr><td>導入
５
分</td><td>①本時の流れを聞く。(プレゼンテーションソフト併用)
・スクリーンの画面を見て、今日の学習活動の内容をつかむ。

②既習事項を振り返る。</td><td>・中世の武家政治が複合的に形成されていったことを、最後のまとめで学習を行う。ただ、発達段階を考慮して、武家政権の移り変わりを捉える切り口として本時があることを説明する。</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">展開
①
２
５
分</td><td>③社会科用グループ（最大４名）で意見交換を行う。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">思考拡散の発問：「だから、歴史が面白い」（仮）というTV番組の制作責任者であるあなたは、中世の武家政治の広がりにおいて、一番大きな影響を与えたと考えるポイントとなった出来事を探し、番組を作成することになった。その際、Aプロデューサーと Bプロデューサーの意見が二つにわれた。(生徒に身近なパフォーマンス課題の設定)
Aプロデューサー：承久の乱
Bプロデューサー：日本国王と名のった足利義満
制作スタッフであるグループメンバーと意見交換をし、どちらがより中世の武家政治の広がりのポイントとして良いのか、話合いなさい。
＊A・Bの他にCその他として、別のポイントを考えてもよい
＊その際、既習事項である歴史的事象と教科書の記述を関連させて、幕府と朝廷の両方の視点を必ず入れること。</td></tr>
<tr><td></td><td>④班に１枚ずつ配られた B4 の用紙に、ポイントとなる歴史的事象のみを書く。(全体共有)</td><td>C：その他として、鎌倉幕府の成立や元寇、日明貿易などを想定させる。
机間巡視で状況を把握する。画用紙には歴史的事象を大きく単語のみで記入させ、理由等は口頭で説明する。
なるべく、C：その他を優先的に発表させる。</td><td></td></tr>
</table>

展開② 15分	⑤個人作業 ルーブリックの説明を聞く。		
	主発問 **中世の武家政治が広がった一番のポイントはＡかＢか、それともＣか。** **そう考える理由とはなんだろう？クラスの意見も参考にしてよい。** **＊Ａ・Ｂの他にＣその他として、別のポイントを考えてもよい** **＊その際、既習事項である歴史的事象と教科書の記述を関連させて、幕府と朝廷の両方の視点を必ず入れること。**		
	⑦数名の生徒が発表する。	なるべく、Ｃ：その他を優先的に発表させる。	イー①ポイントとなる歴史的事象を選んだ理由を、教科書の記述を基に幕府と朝廷の視点を入れ、多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート）
まとめ 5分	⑧本時のまとめを行い、次回の学習内容を捉える。	本時のテーマを確認し、最後のまとめ学習への道筋を示す。 また、次時の活動を説明する。	

（３）本時の評価について

評価のためのルーブリック

【社会的な思考・判断・表現】

A	教科書の記述を参考に朝廷と幕府の両方の視点を入れ、武家政治の大きな影響となったポイントについて複数の歴史的事象を基に説明している。
B	教科書の記述を参考に朝廷と幕府の両方の視点を入れ、武家政治の大きな影響となったポイントについて歴史的事象を基に説明している。
C	片方の視点しか入っておらず、適切な歴史的事象を選べていない。または、文章の意味が通らない内容で説明している。

（４）板書計画

大型モニター
（電子黒板）

中世
「武家政治の広がりを一番大きな影響を与えたと考える出来事は何か？朝廷の立場も踏まえ説明する。」

各班の意見を貼り付ける。
※ 空いたスペースは、教師からの補足記入欄とし活用する。